

感 染 症

相双地域感染症発生動向調査週報(2025年第45週)

(令和7年11月3日～令和7年11月9日)

令和7年11月13日

定点報告(上段: 定点当たり／下段: 報告数)、全数報告(報告数)		2025年					2024年 合計	2023年 合計
区 分	疾 病 名	42週	43週	44週	45週	合計		
定点報告	インフルエンザ	10.00	21.00	32.67	38.33	—	—	—
		30	63	98	115	1,548	1,616	2,660
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	4.33	6.00	3.00	2.00	—	—	—
		13	18	9	6	1,104	3,622	2,663
	RSウイルス感染症	1.00	1.00	—	—	—	—	—
		2	2	0	0	153	309	425
	咽頭結膜熱	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	75	337	129
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.50	—	0.50	2.50	—	—	—
		3	0	1	5	222	657	237
	感染性胃腸炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	427	610	988
	水痘	—	0.50	—	0.50	—	—	—
		0	1	0	1	5	6	1
	手足口病	0.5	—	—	—	—	—	—
		1	0	0	0	15	952	129
	伝染性紅斑	3.00	0.50	3.00	0.50	—	—	—
		6	1	6	1	136	0	8
	突発性発しん	1.00	0.50	—	0.50	—	—	—
		2	1	0	1	53	182	266
	ヘルパンギーナ	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	4	19	319
	流行性耳下腺炎	0.50	—	—	—	—	—	—
		1	0	0	0	9	13	15
	急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎	1.00	—	—	—	—	—	—
		1	0	0	0	2	9	13
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	14	1	3
	クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	0	0
	細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎	1.00	1.00	6.00	1.00	—	—	—
		1	1	6	1	23	16	1
	無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	0	0
	インフルエンザ入院	—	—	1.00	—	—	—	—
		0	0	1	0	16	19	10
	新型コロナウイルス感染症(入院)	—	3.00	2.00	—	—	—	—
		0	3	2	0	52	120	19
	急性呼吸器感染症(ARI)	91.67	100.67	133.67	114.00	—	—	—
		275	302	401	342	6,477	—	—
全数報告	結核	0	1	0	0	3	1	2
	梅毒	0	1	0	0	1	6	6
	百日咳	2	2	0	0	122	0	0

カラー流行表示は、福島県感染症発生動向調査週報(IDWR)の表示をそのまま表示しています。

定点把握疾患	インフルエンザ の流行が見られます。
インフルエンザ	相双地域及び県(県内総数)ともに前週と比較して増加しました。 県内の全域で急増しており、 警報レベル です。昨年は第51週で警報となっており、約1か月早い状況です。今後、気温や湿度の低下と併せて、感染者数の更なる増加が見込まれます。インフルエンザは、インフルエンザウイルスに感染することで、38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛など全身の症状が現れ、喉の痛み、鼻汁、咳等の症状も見られます。急激な感染拡大を防ぐため、普段と体調が異なる場合には出勤や登校を控えるなど体調管理に留意するとともに、ワクチン接種や基本的な感染対策の徹底をお願いします。
新型コロナウイルス感染症	相双地域及び県(県内総数)ともに前週と比較して減少しました。 本県の定点当たり報告数は、第44週時点で全国6番目と、今後の感染拡大防止に注意が必要です。 他疾患同様、基本的な感染対策が重要です。
マイコプラズマ肺炎	相双地域及び県(県内総数)ともに前週と比較して減少しました。 本県で12名(定点当たり1.71)報告があり、いわき市で多い傾向が見られます。マイコプラズマ肺炎は、肺炎マイコプラズマと呼ばれる細菌に感染することで発症する呼吸器感染症で、小児や若年層を中心に流行します。感染経路は飛沫感染や接触感染で、感染してから2～3週間で発熱や全身の倦怠感、頭痛、痰を伴わない咳などの症状が見られます。軽症例がほとんどですが、重症化する事例もあるため、長引く咳などの症状がある場合は医療機関を受診しましょう。
百日咳	本県で13名の報告がありました。 減少傾向にはあるものの、本県及び全国で、例年と比べ報告数の多い状況が続いています。予防には、5種混合ワクチン等の定期接種が有効ですが、接種後数年が経過した人で発病することがあります。主な感染経路は飛沫感染や接触感染とされており、手洗いやマスクの着用など基本的な感染対策が有効です。
結核	本県で3名の報告がありました。報告が続いています。 昨年の同時期と比較して感染者数が多く、高齢者や若年の外国出生者が多くを占めています。早期発見のため定期健診を欠かさないようにし、咳や痰の症状が長く続く場合は医療機関を受診しましょう。

(参考・引用) 福島県感染症発生動向調査、感染症週報、2025年第45号